

ページなど	誤	正	備考	摘要																																																
P210 9.5.2(2)5 iii)解説	なお、支持層が砂地盤又は砂れき地盤でN 値よりせん断抵抗角を推定する場合の方法については、参考資料2に示している。	なお、支持層が砂地盤又は砂れき地盤でN 値よりせん断抵抗角を推定する場合の方法については、参考資料1に示している。	「参考資料2」→「参考資料1」																																																	
P241 10.5.2(2)2)解説	① 著しい地盤沈下が <u>現在進行中生じないこと及び将来とも予想されないこと</u>	① 著しい地盤沈下が <u>生じないこと及び将来とも予想されないこと</u>	「現在進行中生じないこと」→「生じないこと」																																																	
P321 11.2(3) 表一解 11.2.1(b)	<table border="1" data-bbox="338 644 981 1134"> <thead> <tr> <th colspan="3">照査</th> <th colspan="2">基礎全体の照査^{*1}</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="6">レベル2地震動を考慮する設計状況における耐荷性能</td> <td rowspan="2">限界状態1</td> <td rowspan="2">ケーソン基礎に塑性化を考慮しない</td> <td>照査に用いる工学的指標</td> <td>上部構造の慣性力作用位置における水平変位（基礎の降伏変位）</td> </tr> <tr> <td>照査意図</td> <td>基礎全体の挙動の可逆性の確保</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">限界状態2</td> <td rowspan="2">ケーソン基礎に塑性化を考慮する</td> <td>照査に用いる工学的指標</td> <td>基礎の塑性率及びフーチング底面位置の回転角^{*2}</td> </tr> <tr> <td>照査意図</td> <td>基礎に生じる損傷が橋としての機能の回復が容易に行い得る程度に留まる等</td> </tr> <tr> <td colspan="2" rowspan="2">限界状態3</td> <td>照査に用いる工学的指標</td> <td>—^{*3}</td> </tr> <tr> <td>照査意図</td> <td>基礎の抵抗力の喪失防止</td> </tr> </tbody> </table> <p data-bbox="338 1141 694 1197">*1：ケーソン本体のせん断力等の部材照査を別途実施。 *2：目安として提示。 *3：限界状態1又は限界状態2の照査で担保。</p>	照査			基礎全体の照査 ^{*1}		レベル2地震動を考慮する設計状況における耐荷性能	限界状態1	ケーソン基礎に塑性化を考慮しない	照査に用いる工学的指標	上部構造の慣性力作用位置における水平変位（基礎の降伏変位）	照査意図	基礎全体の挙動の可逆性の確保	限界状態2	ケーソン基礎に塑性化を考慮する	照査に用いる工学的指標	基礎の塑性率及びフーチング底面位置の回転角 ^{*2}	照査意図	基礎に生じる損傷が橋としての機能の回復が容易に行い得る程度に留まる等	限界状態3		照査に用いる工学的指標	— ^{*3}	照査意図	基礎の抵抗力の喪失防止	<table border="1" data-bbox="1010 644 1653 1134"> <thead> <tr> <th colspan="3">照査</th> <th colspan="2">基礎全体の照査^{*1}</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="6">レベル2地震動を考慮する設計状況における耐荷性能</td> <td rowspan="2">限界状態1</td> <td rowspan="2">ケーソン基礎に塑性化を考慮しない</td> <td>照査に用いる工学的指標</td> <td>上部構造の慣性力作用位置における水平変位（基礎の降伏変位）</td> </tr> <tr> <td>照査意図</td> <td>基礎全体の挙動の可逆性の確保</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">限界状態2</td> <td rowspan="2">ケーソン基礎に塑性化を考慮する</td> <td>照査に用いる工学的指標</td> <td>基礎の塑性率及び基礎天端の回転角^{*2}</td> </tr> <tr> <td>照査意図</td> <td>基礎に生じる損傷が橋としての機能の回復が容易に行い得る程度に留まる等</td> </tr> <tr> <td colspan="2" rowspan="2">限界状態3</td> <td>照査に用いる工学的指標</td> <td>—^{*3}</td> </tr> <tr> <td>照査意図</td> <td>基礎の抵抗力の喪失防止</td> </tr> </tbody> </table> <p data-bbox="1010 1141 1366 1197">*1：ケーソン本体のせん断力等の部材照査を別途実施。 *2：目安として提示。 *3：限界状態1又は限界状態2の照査で担保。</p>	照査			基礎全体の照査 ^{*1}		レベル2地震動を考慮する設計状況における耐荷性能	限界状態1	ケーソン基礎に塑性化を考慮しない	照査に用いる工学的指標	上部構造の慣性力作用位置における水平変位（基礎の降伏変位）	照査意図	基礎全体の挙動の可逆性の確保	限界状態2	ケーソン基礎に塑性化を考慮する	照査に用いる工学的指標	基礎の塑性率及び基礎天端の回転角 ^{*2}	照査意図	基礎に生じる損傷が橋としての機能の回復が容易に行い得る程度に留まる等	限界状態3		照査に用いる工学的指標	— ^{*3}	照査意図	基礎の抵抗力の喪失防止	「フーチング底面位置の回転角」→「基礎天端の回転角」	
照査			基礎全体の照査 ^{*1}																																																	
レベル2地震動を考慮する設計状況における耐荷性能	限界状態1	ケーソン基礎に塑性化を考慮しない	照査に用いる工学的指標	上部構造の慣性力作用位置における水平変位（基礎の降伏変位）																																																
			照査意図	基礎全体の挙動の可逆性の確保																																																
	限界状態2	ケーソン基礎に塑性化を考慮する	照査に用いる工学的指標	基礎の塑性率及びフーチング底面位置の回転角 ^{*2}																																																
			照査意図	基礎に生じる損傷が橋としての機能の回復が容易に行い得る程度に留まる等																																																
	限界状態3		照査に用いる工学的指標	— ^{*3}																																																
			照査意図	基礎の抵抗力の喪失防止																																																
照査			基礎全体の照査 ^{*1}																																																	
レベル2地震動を考慮する設計状況における耐荷性能	限界状態1	ケーソン基礎に塑性化を考慮しない	照査に用いる工学的指標	上部構造の慣性力作用位置における水平変位（基礎の降伏変位）																																																
			照査意図	基礎全体の挙動の可逆性の確保																																																
	限界状態2	ケーソン基礎に塑性化を考慮する	照査に用いる工学的指標	基礎の塑性率及び基礎天端の回転角 ^{*2}																																																
			照査意図	基礎に生じる損傷が橋としての機能の回復が容易に行い得る程度に留まる等																																																
	限界状態3		照査に用いる工学的指標	— ^{*3}																																																
			照査意図	基礎の抵抗力の喪失防止																																																

P383
12.2(3)
表一解
12.2.1(b)

照査				基礎全体系の照査 ^{*1}
レベル2 地震動を 考慮する 設計状況 における 耐荷性能	限界 状態 1	鋼管矢板基 礎に塑性化 を考慮しな い	照査に用い る工学的指 標	基礎の降伏
			照査意図	基礎全体系の挙動の可逆性の確保
	限界 状態 2	鋼管矢板基 礎に塑性化 を考慮する	照査に用い る工学的指 標	基礎の塑性率及びフーチング底面位置の回転角 ^{*2}
			照査意図	基礎に生じる損傷が橋としての機能の回復が容易に行い 得る程度に留まる等
	限界状態3		照査に用い る工学的指 標	— ^{*3}
			照査意図	基礎の抵抗力の喪失防止

- *1：頂版と鋼管矢板接合部等の部材照査を別途実施。
- *2：目安として提示。
- *3：限界状態1又は限界状態2の照査で担保。

照査				基礎全体系の照査 ^{*1}
レベル2 地震動を 考慮する 設計状況 における 耐荷性能	限界 状態 1	鋼管矢板基 礎に塑性化 を考慮しな い	照査に用い る工学的指 標	基礎の降伏
			照査意図	基礎全体系の挙動の可逆性の確保
	限界 状態 2	鋼管矢板基 礎に塑性化 を考慮する	照査に用い る工学的指 標	基礎の塑性率及び基礎天端の回転角 ^{*2}
			照査意図	基礎に生じる損傷が橋としての機能の回復が容易に行い 得る程度に留まる等
	限界状態3		照査に用い る工学的指 標	— ^{*3}
			照査意図	基礎の抵抗力の喪失防止

- *1：頂版と鋼管矢板接合部等の部材照査を別途実施。
- *2：目安として提示。
- *3：限界状態1又は限界状態2の照査で担保。

「フーチング底面位
置の回転角」→「基
礎天端の回転角」

P417
13.2(3)
表一解
13.2.1(b)

照査				基礎全体系の照査 ^{*1}
レベル2 地震動を 考慮する 設計状況 における 耐荷性能	限界 状態 1	地中連続壁基 礎に塑性化を 考慮しない	照査に用い る工学的指 標	上部構造の慣性力作用位置における水平変位 (基礎の降伏変位)
			照査意図	基礎全体系の挙動の可逆性の確保
	限界 状態 2	地中連続壁基 礎に塑性化を 考慮する	照査に用い る工学的指 標	基礎の塑性率及びフーチング底面位置の回転角 ^{*2}
			照査意図	基礎に生じる損傷が橋としての機能の回復が 容易に行い得る程度に留まる等
	限界状態3		照査に用い る工学的指 標	— ^{*3}
			照査意図	基礎の抵抗力の喪失防止

- *1：地中連続壁のせん断力等の部材照査を別途実施。
- *2：目安として提示。
- *3：限界状態1又は限界状態2の照査で担保。

照査				基礎全体系の照査 ^{*1}
レベル2 地震動を 考慮する 設計状況 における 耐荷性能	限界 状態 1	地中連続壁基 礎に塑性化を 考慮しない	照査に用い る工学的指 標	上部構造の慣性力作用位置における水平変位 (基礎の降伏変位)
			照査意図	基礎全体系の挙動の可逆性の確保
	限界 状態 2	地中連続壁基 礎に塑性化を 考慮する	照査に用い る工学的指 標	基礎の塑性率及び基礎天端の回転角 ^{*2}
			照査意図	基礎に生じる損傷が橋としての機能の回復が 容易に行い得る程度に留まる等
	限界状態3		照査に用い る工学的指 標	— ^{*3}
			照査意図	基礎の抵抗力の喪失防止

- *1：地中連続壁のせん断力等の部材照査を別途実施。
- *2：目安として提示。
- *3：限界状態1又は限界状態2の照査で担保。

「フーチング底面位
置の回転角」→「基
礎天端の回転角」

P536
参考資料1
式(参1.1)

$$\phi = 4.8 \log N_1 + 23$$

$$\phi = 4.8 \log N_1 + 21$$

「23」→「21」

P536
参考資料1

式(参1.1)は、図-参1.1に示すように、原地盤よりサンプリングした試料から求めた三軸圧縮試験結果と原位置で計測したN値から算出した N_1 との相関関係に基づいて設定したものである。

式(参1.1)は、図-参1.1に示すように、原地盤よりサンプリングした試料から求めた三軸圧縮試験結果と原位置で計測したN値から算出した N_1 との相関関係に基づいて、その統計的なばらつきを考慮して設定したものである。

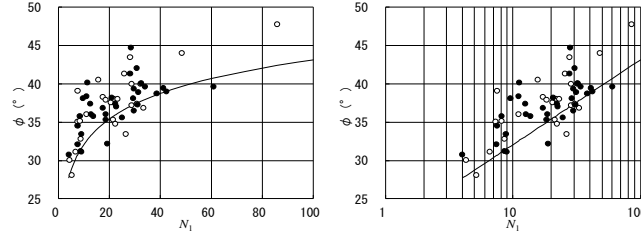
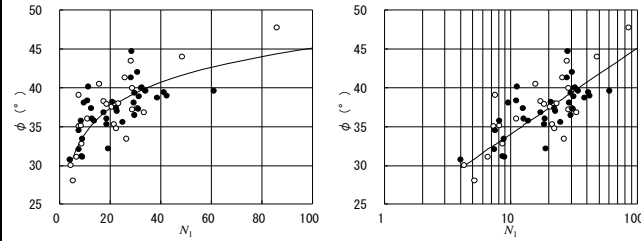
「、その統計的なばらつきを考慮して」を追記

P536-537
参考資料1

なお、砂のせん断抵抗角 ϕ に関する従来の参考資料では、 ϕ と N_1 の相関関係に対し、一定の安全余裕を考慮して平均値よりも小さめの ϕ が得られるように設定された式を示していた。一方、今回の改定では、設計計算において平均的な挙動が得られるような値を地盤定数の特性値とすることが4.2で規定されたことに伴い、 ϕ の平均値を与える式として、式(参1.1)を示している。

(削除)

P537
参考資料1
図-参1.1



図中の曲線、直線の修正